

『参考1』

第2回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議資料  
平成24年1月25日

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表  
《仁淀川地域：第3四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>1 地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展</p> <p>《土佐市、いの町》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p>	<p>◆産地ビジョンの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷体制整備</li> <li>・販売力強化</li> </ul>	<p>高知県産業振興推進総合支援事業 総合支援事業費(特別承認)の活用 5月受審、8月中旬着工、H24年1月下旬完了予定</p>
<p>2 加工用ワサビの加工の促進</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを加工出荷する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p>	<p>◆加工原料の確保・生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業振興部と連携した生産の振興</li> <li>・栽培技術習得の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4/12 第1回チーム会開催</li> <li>●7/26 第2回チーム会開催</li> <li>●平成23年度集落営農拠点ビジネス支援事業により、4戸の生産者が1,759.7m<sup>2</sup>の施設を導入</li> </ul>
<p>3 土佐文旦の加工</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため、加工品の原料としての有効活用を図る。</p>	<p>◆文旦を利用した加工品については、様々な分野で注目されており、利用情報も多くなってきた。こうした、情報の中から、有益な情報を抽出し新たな取組を実践していくことが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土佐文旦加工組合と加工業者との連携による新商品の共同開発と販路拡大の内容と、導入できる関連事業について打ち合わせ会の開催(20回)</li> <li>○6次産業化に係る認定申請の作成と検討(4回)</li> <li>○ステップアップ事業導入</li> <li>○チーム会の開催(1回)</li> <li>○新商品PRのためのアンテナショップでの取り組み、土佐文旦祭りへの取り組み検討(3回)</li> </ul>
<p>4 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市中等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>◆実施内容、実施方法の検討</p> <p>◆実施結果の振り返りと今後の実施方法の検討</p>	<p>産業振興推進総合支援事業補助金 ・新工場建設(8月採択決定)</p>
<p>5 集落営農の推進</p> <p>《いの町》</p> <p>◆集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>◆協業経営について、円滑な運営が行われるように取り組むことが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎月の定例会の開催6回、視察研修1回 機関誌の発行2回</li> <li>②協業部門研修会12回 展示実証圃2品目 共同作業5回</li> <li>③作業受託計画検討会(5回)PR活動(4回)</li> <li>④有望品目研究部会の設立と講習会(2回)</li> </ul>
<p>6 新高梨の加工</p> <p>《いの町》</p> <p>◆生理障害等により廃棄処分されている新高梨を有効活用して新商品を開発し、販売を促進することにより、農業者の所得の向上を図る。</p>	<p>◆本年度重点的に取り組む酒造会社への加工用原料の提供について、連携内容等の具体の検討が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新チーム員でのチーム会等の開催(4回)</li> <li>○酒造会社とのうち合わせ会(1回)</li> <li>○加工用向け梨の生産量調査の実施</li> <li>○シャーベットのいの町内レストラン販売に向けてのうち合わせ会(2回)</li> </ul>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
		◆ニラの販売額 2.1億円 ◆生姜の販売額 4.2億円 ◆土佐文旦 2.2億円
		◆加工用ワサビの加工出荷量:130t
○ぶんぶんの改良内容と販路拡大方法を具体的に検討でき新しい飲料が開発され、販路拡大の予定ができた。ANAに1月～3月まで販売ができることになった。 ○菊水酒造(株)への文旦の提供料30tに決まった。 ○東京のアンテナショップでのPR方法を文旦加工組合とひまわり乳業で連携ができた。		加工品の販売:2品目 規格外品の原料確保:80t
		生姜加工品の販売額 102,000千円
①加工用ワサビの後作として2戸4aで小ネギと葉ニンニク0.2aの栽培。協業面積1.89ha ②作業受託は田植え144aと前年並み、トラクターのレンタル実績が81a、防除機レンタル114a、収穫(受託・レンタル)214a、管理機レンタル10a ③有望品目研究部門が設立され参加延べ人数19名。	①協業部門のハウス高度利用について関心が高まり集落営農・拠点ビジネス事業導入が1戸増えた。 小ネギのJA出荷2戸 ②オペレーターの意欲の増大。 ③有望品目研究部門から直販やJA出荷への取り組みへの契機となる。	①地域の協業の取り組み:1.9ha ②農作業延べ受託面積:24ha ③新部門設立:2部門
○酒造会社との連携内容が決まり3tの梨が提供された。 ○シヤベットの新しい販売業者候補ができた。		加工品の販売:1品目 規格外品の原料確保:7t

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>7 本川キジの販路確保と新たな商品開発</p> <p>《いの町》</p> <p>◆いの町本川地区の特産品として、「本川キジ」の販路の拡大や新商品の開発に取り組み、中山間地域における新たな産業として定着させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆孵卵から育成までのチェック体制の確立</li> <li>◆予冷库、ハッチャーの導入</li> <li>◆商品パンフレットの整備</li> <li>◆新規販路の開拓(関東・関西圏)</li> <li>◆庭先農家の発掘</li> <li>◆採卵用成鳥舎、廃水処理施設、脱毛機の導入</li> <li>◆新商品開発(レトルト用)</li> <li>◆加工製造会社との連携の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆H23年度農商工連携事業化支援事業(高知県産業振興センター) 4/1採択決定(助成額: 3,230千円)</li> <li>◆農商工連携事業化支援事業で土佐・本川献上手箱きじ開発メニュー発表・試食商談会(手箱建設)メニュー開発業者10社、出席者170人</li> </ul>
<p>8 給食への食材提供(安定的な出荷先の確保)</p> <p>《いの町》</p> <p>◆学校給食へ地元食材を提供するシステムを構築し、供給量を拡大することにより、地産地消や安全・安心な食材の提供を推進するとともに、農業者の所得の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆食材供給体制については、現状では、今以上の体制を組むことができないことが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チーム会の開催(2回)</li> <li>○出前授業うち合わせ(2小学校)</li> <li>○出前授業の実施(2回)次年度についての検討(3回)</li> </ul>
<p>9 仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興</p> <p>《仁淀川町、越知町、佐川町、日高村、いの町》</p> <p>◆良質茶の主産地である仁淀川流域の共通ブランドとして、「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、効率的な生産体制の整備や新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆仁淀川流域茶の小売販売向上および生産体制整備に向け、特に取り組みが必要な事項</li> <li>・仁淀川流域で統一したブランド(仁淀川流域茶)の確立</li> <li>・将来ビジョンづくりにもとづく生産体制づくり</li> <li>・加工品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆沢渡茶生産組合座談会の開催: 1回(4月11日)</li> <li>◆仁淀川流域茶産地振興協議会企画運営部会の開催: 1回(5月24日)</li> <li>◆平成22年度仁淀川流域茶産地振興協議会通常総会の開催: 1回(6月1日)</li> <li>◆紅茶製造勉強会の開催: 1回(アドバイザー制度、7月7～8日)</li> <li>◆ポップ広告講習会(アドバイザー制度10月4日)</li> <li>◆紅茶審査試飲会の開催: 1回(12月6日)</li> <li>◆東京先進地視察(12月8～9日)</li> </ul>
<p>10 薬用作物の産地拡大による所得の向上</p> <p>《越知町、佐川町、日高村、仁淀川町》</p> <p>◆大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコやサンショウなどの薬用作物の産地を大手製薬会社の漢方薬の需要増に対応できるよう作付を拡大し育成することにより、所得の向上と就労の場の確保を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆薬用作物の産地の育成に向け、取り組みの必要な事項</li> <li>・作付面積の拡大</li> <li>・収穫量の増加しているサンショウを収穫する労力の確保が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆薬用作物の作付面積拡大に向けた取り組み(毎年)</li> <li>・ミシマサイコ栽培の呼びかけと栽培者への種子配布</li> <li>・サンショウ栽培の呼びかけと栽培者への苗木配布</li> <li>・サンショウの生育不良樹の調査</li> <li>・ミシマサイコ、サンショウの作付面積拡大の呼びかけ</li> </ul>
<p>11 力強い高糖度トマト産地の確立</p> <p>《仁淀川町、佐川町、日高村》</p> <p>◆地域の特産品の高糖度トマトに新たなブランドを加えることにより、付加価値を高め、産地間競争力を強化し、生産者の所得の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)まとまりによる競争力を強化するため、産地目標達成に向けた部会活動の強化</li> <li>(2)経営体質の強化に向け、個人経営目標作成と経営改善策の実践</li> <li>(3)高糖度トマトの安全・安心で高品質、安定生産に向けた栽培技術の普及</li> <li>(4)出荷販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者ニーズ(消費者・流通関係者)を基にした販促戦略の構築</li> <li>・マーケットイン販売計画の作成、出荷試行</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～12月間の月例会の開催 8回</li> <li>・産地コンセプト作りの開催 3回</li> <li>・個別カウンセリングの実施 8回</li> <li>・各班(品質・販売班、販売促進班、栽培班)の年間活動計画の策定支援</li> <li>・産業振興推進総合支援事業検討会の開催 6回</li> <li>・産地のブログ作成業者打合せ 1回</li> <li>・消費者との意見交換会 2回</li> </ul>
<p>12 地域を支える基幹品目(食用サンショウ)の振興</p> <p>《越知町、佐川町、日高村》</p> <p>◆中山間地域の圃場条件や気象条件を活かした基幹品目(食用サンショウ)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p>	<p>栽培技術の向上、安定的な生産の維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム会の開催(毎月1回)</li> <li>・栽培技術の検討</li> <li>・加工品の検討</li> <li>・栽培、出荷状況確認</li> </ul> <p>越知町山椒組合総会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の安全安心の取り組み</li> </ul> <p>土壌分析の実施 9点</p> <p>生育不良樹の調査 2回</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農商工連携事業化支援事業でH22商品開発した1品目をメーカーと改良中</li> <li>◆アンケート結果では評価は高いものの価格が課題である。メニューに取り入れたいとの複数意見あり。新規商品では「つみれ」が好評。ギフト商品としてのインターネット販売の商談あり。</li> </ul>		本川きじの生産羽数4,500羽
<ul style="list-style-type: none"> <li>○出前授業実施小学校2カ所</li> <li>○食材提供する直販組織の合併による組織強化。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆将来ビジョンの検討会出席者数:30名(進捗率20%)</li> <li>◆平成23年度通常総会参加者数:36名(進捗率100%)</li> <li>◆紅茶製造勉強会参加者数:15名(進捗率100%)</li> <li>◆ポップ広告講習会参加者数5名(進捗率100%)</li> <li>◆紅茶審査試飲会参加者数:15名(進捗率100%)</li> <li>◆東京先進地視察参加者3名(進捗率100%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆将来ビジョン策定への必要性の意識向上</li> <li>◆生産者及び関係機関の販売拡大への意識の向上</li> <li>◆紅茶の品質のばらつきが減少</li> <li>◆生産者のポップによる商品PR力の向上</li> </ul>	◆仁淀川流域茶(仕上げ茶)の販売量:茶全体の15%
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆22年度実績(仁淀川流域管内)</li> <li>・ミシマサイコ作付面積:41ha</li> <li>・サンショウ作付面積 :42ha</li> <li>・新規での栽培意向者の問い合わせがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコ、サンショウの面積拡大の推進</li> <li>・サンショウの病害対策が徹底された</li> </ul>	◆ミシマサイコの作付面積:55ha ◆サンショウの作付面積:40ha
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月例会の参加者 延べ91名</li> <li>・土壌病害「萎凋病」発生率(12月現在) 3%</li> <li>・黄化葉巻病発生率(12月現在) 0.2%</li> <li>・産地コンセプト作り参加者 28名(内女性5名)</li> <li>・個別カウンセリングの実施 12戸/17戸</li> <li>・各班の年間活動計画が部会で採択され活動が開始</li> <li>・産業振興推進総合支援事業の総合補助金が採択され産地PR活動が開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の目標が明確となり栽培管理意識が向上</li> <li>・部会活動が活発化</li> <li>・4~12月末までのトマト販売額 : 232百万円</li> </ul>	◆高糖度トマト販売金額 5億円
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培暦の改善</li> <li>・環境保全型農業の取り組みの進歩</li> <li>・土壌分析に基づく苦土石灰の施用による土壌pHの矯正</li> <li>・生育不良樹の状況把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌改善による樹勢の維持</li> <li>・生育不良樹の原因解明(土壌・病害虫)と対策の検討</li> </ul>	◆ニラの販売額 3.4億円 ◆ピーマンの販売額 1.3億円 ◆食用山椒の販売額 6,200万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>13 集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆集落の農業者が協力して、管理が困難になった農地や高齢者等の労力などの地域資源を利用した集落営農を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>◆新品目の導入・拡大と特色ある米づくり(集落の農業所得の向上)</p> <p>◆人が集まる組織・支援のしくみづくり(共同化と農作業受委託の推進)</p>	<p>◆組織活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□チーム会 9回</li> <li>□重点チーム会 9回</li> <li>□組織運営に対する助言・指導(個別巡回、打合せ) 随時</li> <li>□役員会 2回、全体会2回</li> </ul> <p>◆共同ほ場、飼料稲・飼料米の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ミマサイコ状況確認(巡回指導) 随時</li> <li>□スイートコーン栽培指導(巡回指導) 随時</li> <li>□飼料稲・飼料米栽培指導 随時</li> <li>□ピーマン栽培指導(巡回指導) 随時</li> <li>□新品目の提案及び導入(巡回指導) 随時</li> </ul>
<p>14 間伐の推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆「森の工場」を核にして、林業事業体や担い手の育成などに取り組み、間伐の推進と素材の増産を図る。</p>	<p>◆木材価格の低迷により、補助金無しでは間伐が進まない状況にある。</p>	<p>新規森の工場予定事業体の指導 事業体への事業説明会の実施</p>
<p>15 (株)ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、(株)ソニアを核とする流域の製材工場等の経営体質の強化など、加工・流通の安定化に向けた取組を進め、木材産業の振興を図る。</p>	<p>◆ソニア自体の経営状況が悪化し存続が混迷状態であり、運営する市町村の動向を見極める必要がある</p> <p>◆住宅着工戸数が100万戸から70万戸台(予測)まで激減し、木材業界全体がかなり冷え込んだ状況にあり、仁淀川流域における業界の新たな取り組みまでに至らない</p>	
<p>16 県産材の地域における需要拡大</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の地産地消を推進する。</p>	<p>◆公共建築の木造・木質化、公共土木工事における木材使用の2つを大きな柱としているが、それに関し以下の課題が大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共土木工事の減</li> <li>・市町村財政の困窮</li> </ul>	<p>・平成23年度木の香るまちづくり推進事業計画についての指導(1回)</p> <p>・平成23年度木の香るまちづくり推進事業の進捗状況の把握・指導</p>
<p>17 特用林産物の販売拡大(シキミ・サカキ、竹炭の販売拡大を拡充)</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆シキミ・サカキの生産量の増加等に対応した集出荷施設の整備や、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図る。</p>	<p>◆生産者情報が不十分</p> <p>◆生産者の高齢化・後継者対策</p>	<p>・仁淀川町内のシキミ・サカキ生産状況の把握(2回)</p> <p>・効果的な取組について、関係者と協議・検討(1回)</p> <p>・生産意欲を向上させる講演会の開催を提案・協議(1回)</p>
<p>18 うるめのブランド化</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆「宇佐のうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により、需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供できる体制づくりにより、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p>	<p>○経営戦略の策定</p> <p>○「宇佐もんや」の経営</p>	<p>○ふるさと雇用(うるめと観光のまち事業)</p> <p>○商談会への参加</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>□チーム活動により経過・現状・課題についての共有化を図ることができた。</li> </ul> </li> <li>◆共同ほ場、飼料稲・飼料米の実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ミシマサイコ栽培中止後の代替作として葉ニンニク(3a)、ネギ(1a)、春キャベツ(17a)を栽培開始</li> <li>□飼料稲、飼料米：・黄熟期での地上部新鮮重調査では「たちすがた」(ヒノヒカリ対比129)と「クサノホシ」(同139)が好成績であった。</li> <li>□ピーマン昨年度より収量増・高単価で販売額が上がる見込み(1戸) 青枯れ病発生農家は次作の対策(ほ場替え・抵抗性台木接ぎ木苗導入)検討(1戸)</li> <li>□新品目の導入検討(スイートコーン20a)次作に向け、ほ場の石拾い、牛糞堆肥(4t/10a)を施用(12月)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>□関係機関と共有化を図り計画的に活動を行うことができた。</li> </ul> </li> <li>◆共同ほ場、飼料稲・飼料米の実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>□共同ほ場については、管理責任者を設置し普及所から提案した葉ニンニク等の栽培を開始した。</li> <li>□飼料稲・飼料米については、当地域に適した栽培品種を示すことができた。地元酪農家に良質なWCSとして提供することができた。</li> <li>□ピーマンについては、青枯れ病の発生で欠株が生じなければ比較的安定した収益が見込まれる。</li> <li>□品目選定に関係なく、土つくりの必要性を周知徹底することができた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆集落営農組織数 1組織 (平成21年3月14日 設立)</li> </ul>
事業説明会 10事業体		素材生産量 7.1万m3
・平成23年度木の香るまちづくり推進事業計画策定 (土佐市他6件、施設の木質化等)		
		シキミ・サカキの出荷量 26t
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新酒の会」(食イベント及び商談会)への参加(東京) 商談件数 約30社</li> <li>・天下の台所への出展(大阪) 商談件数 約30社</li> <li>・フードテック2011への出展(大阪) 商談件数 約25社</li> <li>・株大商水産展示会への出展(大阪) 商談件数 4社</li> <li>・食の商談会へ参加(高知) 商談件数 約10社 → 4社継続中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月別売上高目標(第2四半期 7万円/日)クリア (実績:78,000円/日)</li> <li>月別売上高目標(第3四半期 12万円/日 →実績:81,000円/日)</li> </ul>	◆うるめの水揚量 150t

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>19 「土佐和紙」の販売促進</p> <p>《いの町、土佐市》</p> <p>◆地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙の県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。</p>	<p>「土佐和紙」の販売促進へむけて取り組む事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐和紙の需要拡大</li> <li>・新販売組織「i-nos.net」を活用した新商品開発及び販路の拡大</li> <li>・トリエンナーレ展を通じた土佐和紙の販路拡大</li> <li>・地産地消(手すき和紙での卒業証書づくり等)</li> <li>・土佐和紙の技術伝承</li> <li>●原料である土佐楮の確保</li> <li>・いの町内における土佐楮生産実態が不明</li> </ul>	<p>○ガリ版サポーター養成講座を開催(5/24、6/7、7/7)</p> <p>○トリエンナーレ審査会(5/28・29)、実行員会(5/31)を開催。予算・審査結果・今後の日程や広報活動具体的内容、激減理由の分析等について検討を行った。</p> <p>○天然素材を使った環境に優しい和紙の染める技術の習得講座を実施。(5/25 21名参加、7/13 13名参加)</p> <p>○紙の商品開発の一環として、和紙のぞりづくり講座を10回(6月～7月5回、10月～11月5回)開催。</p>
<p>20 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆土佐市の「高岡日曜市」の臨時拡大版である「あったか高岡スーパー日曜市」を開催し、高岡商店街で楽しめるスペースをつくること、サンシャイン高岡跡地にテナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域の商業の振興につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日曜市組合、県警、地元業者等との協議</li> <li>◆実施場所、実施内容、実施方法の検討</li> <li>◆実施結果の振り返りと今後の実施方法の検討</li> <li>◆産業会館を核とした商店街活性化の検討</li> </ul>	<p>産業振興推進総合支援事業補助金(ステップアップ事業)</p>
<p>21 地域産品を活用した冷菓等の製造</p> <p>《いの町》</p> <p>◆地域産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆冷菓等製造施設設備の整備により生産体制が強化され、更なる販路拡大が求められるとともに顧客ニーズにあった商品づくりが必要となる。</li> </ul>	<p>第1回実行支援チーム会(6/9)</p> <p>第2回実行支援チーム会(9/1)</p> <p>産業振興推進総合支援事業の審査会(9/26)</p> <p>産業振興推進総合支援事業交付決定(11/8)</p> <p>補助金1,152千円</p>
<p>22 (株)フードプランの地域商社化への取組</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆仁淀川町において、地域の商社として「(株)フードプラン」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆H21年度の施設改修により向上したカット野菜の処理能力をフルに活かせるように、主要商品であるカット野菜の更なる販売拡大に取組んでいくことが重要となる。</li> <li>また、地元の素材を活用した新たな商品の開発に取り組んで行くことも今後は必要となってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆販路拡大への取り組み</li> <li>◆仁淀川町補助事業(農産物等集荷支援事業) 7/22交付決定(補助金額:1,300千円(うち1/2県補助))</li> </ul>
<p>23 売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町において、地元民間企業の商品の販売の促進や、一次産品を使った特徴のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆売れる商品づくりでの課題</li> <li>・地元産品(一次産品)を新たな商品とする、1.5次化する加工方法、加工品等への外部アドバイスの必要性</li> <li>◆地産外商での課題</li> <li>・アンテナショップや量販店等での販路、販促活動への取り組みの検討</li> <li>・販促、販売組織の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合支援事業費補助金(一般事業 3,175千円 4/26 審査会、5/27交付決定) 地乳加工品販促ツール作成</li> </ul>
<p>24 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取り組みを進めるとともに、地域資源を活用した企業の取り組み等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆村内企業等の課題の把握</li> <li>◆魅力ある企業の誘致や村内企業の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日高村庁内プロジェクト会議の開催:3回</li> <li>◆企業訪問の実施:6/27・7/1</li> </ul>

<b>アウトプット(結果)</b> <b>&lt;インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと&gt;</b>	<b>アウトカム(成果)</b> <b>&lt;アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと&gt;</b>	<b>目標(H23)</b>
<p>○和紙のぞうりづくりのメンバー(20名)が「いの小町」という紙製品製作グループを立ち上げ、第1段としてi-nos.netを通じて和紙ぞうり「いの小町」のネット販売を開始。</p>		<p>土佐和紙の販売額 1.6億円</p>
<p>・基本計画設計委託(9月)</p>		
		<p>冷菓等の販売額3.825億円</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「豆腐」新商品の販売開始 (サニーマート毎日屋あさくらセンター店)</li> <li>◆「カット野菜」新規取引の開始(愛媛県の販売店舗)</li> <li>◆「カット野菜」納入の本格化(給食センター)</li> <li>◆庭先集荷(地元野菜)開始</li> <li>◆「カット野菜」新規取引の開始(須崎市の販売店舗)</li> </ul>	<p>◆庭先集荷の開始により、参加生産者が増加(35名)</p>	<p>㈱フードブランドの販売額2.6億円 (H22.10~23.9)</p>
<p>・量販店と連携した販促やイベント等での販促活動(11回)</p>	<p>・加工品の販売促進による生乳の取り扱いの増加</p>	<p>生乳出荷量拡大 480t 生産乳価向上 単価50%増 加工業者収入増</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>25 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>◆高知県産のさつま芋を活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p>	<p>◆販路の拡大 ◆原材料のさつま芋の栽培確保</p>	<p>◆企業訪問の実施:6/27</p>
<p>26 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>◆木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p>	<p>◆魅力ある企業の誘致 ◆地域素材を活用した地域振興</p>	<p>◆企業訪問の実施:6/27</p>
<p>27 体験型観光・食観光の推進</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p>	<p>◆体験型観光及び食観光の推進</p>	<p>○「とさあるく。」定例会(15回実施) ○「とさあるく。」他地域へのまちあるき研修会に参加(3回、14名参加) ○活力創出支援事業費補助金(土佐市)申請</p>
<p>28 体験型観光メニューづくり 29 「仁淀川」での遊覧船(屋形船)の運航</p> <p>《いの町》</p> <p>◆いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。 ◆全国的な知名度が低い「仁淀川」を総合的に売り出すため、近畿・関東地方の旅行業関係者の関心が高い、遊覧船(屋形船)の運航に向けた取組を進める。</p>	<p>●体験型観光の新たなメニュー・実行主体の確立。 ●新たな構築メニューの人材育成とPR ●体験型観光メニューの整理 「遊覧船」については、本川・吾北等も対象に最終的な可能性調査のうえ、適否を検討。</p>	<p>○7月から開始したソフトラフティングのインストラクターの人材育成及び安全講習に加え、魅力あるプログラムの構築のためのアドバイザー派遣講習及びデモを実施。(4/27~28、5/11~12、16~17、5/28~29、6/15~16、25~26)</p>
<p>30 「グリーンパークほどの」の多面的な活用</p> <p>《いの町》</p> <p>◆「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p>	<p>◆地域住民の協力(プログラムの実践へ向けて) ◆教育現場との調整 ◆環境先進企業の参画 ◆継続可能な運営・財政計画</p>	<p>体験プログラム充実にに向けた協議の実施</p>
<p>31 「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大</p> <p>《いの町》</p> <p>◆「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の地理的な条件を活かし、アスリート等を対象にした高地トレーニングや、高地を活用した健康増進メニューの開発を行い、他の観光資源とも組み合わせることにより、体験型観光を推進する。</p>	<p>◆実施主体の決定 ◆高地トレーニング、ウォーキング ◆宿泊施設への地域食材提供の仕組みづくり、直売所や温泉への誘客 ◆フィールドへの移動方法 ◆町道瓶ヶ森線の冬場の通行</p>	<p>◆第1回実行支援チーム会 ◆第2回実行支援チーム会</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
		◆食品加工新規部門の販売額:3.5億円(H23.7)
		◆ペット用木質系排泄物処理剤の販売額:3,400万円
○活力創出支援事業費補助金(土佐市)交付決定 (まちあるきマップ及びスタッフジャンパーの作成)		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人
○ラフティングの開始によって、カヌーとラフティング併せて 1,136名の利用者があり、カヌーだけの前年(約500名弱) と比べても2倍以上利用者があった。	○ラフティングの実施により、土佐和紙工芸村に 常勤1名、非常勤2名の新たな雇用が発生している。	◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人
		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人
◆高地トレーニング実施(8/22～8/26) (大阪府星翔高校女子駅伝部大学生計10人) ◆夏期ウォーキング2回(愛媛、高知の旅行会社) ◆秋期山岳ウォーキング2回催行 (観光協会、城西館・西南交通)		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>32 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</b></p> <p>《佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、橋原町》</p> <p>◆横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせ、<b>「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</b></p>	<p>◆世界ジオパークの認証むけた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織や財政計画の整備</li> <li>・地域資源の認識と掘り起こし</li> <li>・地域の経済発展につながる資源の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事務局との打合せ(1回)</li> <li>◆担当者打合せ(3回)</li> <li>◆担当課長会(1回)</li> <li>◆総会(1回)</li> </ul>
<p><b>33 観光情報のコーディネイトと情報発信拠点の設置</b></p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆仁淀川町において、情報発信基地の整備や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①情報発信力が弱い、センター機能がない。</li> <li>②グリーンツーリズムなどが収益に繋がらない。</li> <li>③夏季以外の季節の宿泊者数が少ない。</li> <li>④日帰りの観光が多い。</li> <li>⑤団体間の連携に難、ガイド不足。</li> <li>⑥集客数が多いイベントでも地場産品の販売にはあまり繋がっていない。</li> <li>⑦都市部から遠隔地、交通不便</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体のHP制作、ネットワーク化、情報発信力の強化</li> <li>・各団体の観光ガイドの育成(旧町村各2名計6名の育成目標)</li> <li>・観光地及び観光施設の改修やリニューアル</li> <li>・町内観光情報の整理と新たなニーズ調査</li> <li>・観光ツアーの商品化に向けた検討と同モデルツアーの実施・検証</li> <li>・観光情報コーディネートの育成</li> <li>・お土産品及び食品メニューの検討と商品化の実現</li> <li>・観光情報発信基地の設置</li> <li>・観光団体のネットワーク化(観光協会を組織する方向)</li> </ul>
<p><b>34 歴史的風致維持向上計画の推進</b></p> <p>《佐川町》</p> <p>◆「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。</p>	<p>【街なみ環境整備事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の活動・取組体制の設立</li> <li>・施設活用への取組体制の整備</li> </ul> <p>【佐川町歴史的風致地区施設活用計画策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規整備に対する活用・財政計画とその効果</li> <li>・施設活用のための組織・団体づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関との事業計画策定に係る打合せ 5/26(県・住宅課)、5/30(国・四国整備局)</li> <li>◆「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区」まちづくり計画策定業務委託(4,725千円 10/24 町単独事業)</li> <li>◆「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区」街なみ環境整備計画策定業務委託(2,835千円 10月24日 国庫補助事業)</li> </ul>
<p><b>35 佐川町における知的体験型観光の推進</b></p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町の歴史街では、「学ぶ楽しみ・触れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ 大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光」を目指し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>【知的体験型観光活用計画策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規整備に対する活用・財政計画とその効果</li> <li>・体験型観光実施の組織・団体づくり</li> <li>・計画予定地の取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区」まちづくり計画策定業務委託(4,725千円 10/24 町単独事業)</li> </ul>
<p><b>36 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化</b></p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町には偉人の多くの収蔵資料があり、特に植物学者として世界的に著名な牧野富太郎博士にちなんだ収蔵資料が多くある。この植物標本や植物画等の展示施設を整備し、集客の核として充実を図る。また、佐川町では平成24年には牧野博士の生誕150年にあたり。ポスト「龍馬伝」として「牧野博士」を旗頭とした地域活性化を推進する。</p>	<p>【牧野資料館活用計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改修整備に対する活用・財政計画とその効果</li> <li>・資料館運営管理体制の確立</li> <li>・改修施設の目的外使用の協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区」まちづくり計画策定業務委託(4,725千円 10/24 町単独事業)</li> </ul>
<p><b>37 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進</b></p> <p>《越知町》</p> <p>◆情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を整備し、そこを拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p>	<p>「おち駅の運営」</p> <p>〔情報発信〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信体制の強化</li> <li>・特に情報発信効果の高いものの更なる強化</li> </ul> <p>〔物販〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・損益分岐点売上高から導いた目標売上高の達成</li> <li>・集荷と販売の最適化に向けた継続的な改善</li> <li>・お客様の声の把握と要改善事項への対応</li> <li>・加工品の供給体制づくり</li> </ul> <p>「越知町の体験型観光」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者が増える体験メニューの企画</li> <li>・観光企画メニューを実現できる体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆おち駅スタッフ会の実施:1回</li> <li>◆関係者によるおち駅の運営協議(4/8)</li> <li>◆ラフティングインストラクター養成講座:12回</li> <li>◆経営改善会議:2回</li> <li>◆産業振興アドバイザーによる加工食品の改良等:4回</li> </ul>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
◆全体計画やスケジュール、方向性等について構成町村間で意識の共有ができた		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊予鉄トラベル(愛媛)によるツアー実施:7回(12月末現在)</li> <li>・Bスタイル事業と連携した観光アンケートの実施(1回)</li> <li>・インターンシップ事業によるツアーづくり検討(案:5ツアー)</li> <li>・カフェ池川茶園などと連携した観光ルート課の実践5回</li> <li>・体験型観光(しもなの郷の燻製づくり)の確立</li> <li>・お茶のスイーツ(アドバイザー制度 仁淀川町土産物)の確立(5品)</li> <li>・仁淀川町の観光を考える会開催8回</li> <li>・仁淀川町の観光ガイドの学校開始(11月から)</li> <li>・観光商品(白イモチップス)販売開始(12月から)</li> </ul>	2011年4月からのガイド実施等の状況(12月末実まで) <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊予鉄トラベルで120名をガイド(仁淀川町の観光を考える会)</li> <li>・大崎まちあるきガイド79名(武田勝頼土佐の会)</li> <li>・JALツアーとの連携開始～ツアー化決定(4月から)</li> </ul>	◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人
		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人
		体験型施設での入込客数:5,000人
		体験型施設での入込客数:5,000人
◆体験型観光(カヌー・ラフティング)の開始:7月～ラフティング利用者数(イベント分除く):175人 カヌー利用者数(イベント分除く):44人		◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人 ◆整備後の施設での販売額:6,000万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>38 国宝と体験型観光による人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆日高村において、小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした体験型観光により、地域での交流人口を拡大し、地域の活性化につなげる。</p>	<p>◆交流人口拡大のための条件整備</p>	<p>◆日高村庁内プロジェクト会議の開催:3回 ◆産業振興アドバイザーの派遣申請:7/6・13・20 1/19・31・2/14</p>

<p>アウトプット(結果)  &lt;インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと&gt;</p>	<p>アウトカム(成果)  &lt;アウトプット(結果)等を通じて生じる  プラスの変化を示すこと&gt;</p>	<p>目標(H23)</p>
<p>◆アドバイザー派遣による講習により、受講した住民の中から加工品生産グループ【村のかまや】が立ち上がった。</p>	<p>◆日高村の地場産品をつかった加工食品が観光客に提供できるようになる。</p>	<p>◆公共関連宿泊施設での宿泊者数: 60,000人</p>